

今回は、白川郷学園・関高等学校オンライン交流会の報告です。

◇ 白川郷学園9年生のみなさんとオンラインで交流しました！

次行名： 白川郷学園・関高等学校 探究的な学びを通じた交流会

目的： 探究活動に関わる交流を通じ、たがいの地域や地域貢献について学び合う機会をもつ。

日時： 令和3年7月12日（月） 9:00～12:00

参加者： 白川郷学園9年生15名 関高生10名

場所： せきてらす（関市平和通4-12-1）

内容： オンラインによる探究活動交流会
・白川学園の生徒による村や学校の紹介
・関高生による発表（3名） ・質疑応答

◇ 白川郷学園と村民学

白川村立白川郷学園は、平成29年度にスタートした小中一貫の義務教育学校です。誰もが顔見知りというコミュニティの中で、児童・生徒のみなさんは、地域との関わりの中で、以下に紹介する「村民学」と呼ばれる特色ある活動をしています。

村の小さな課題を子どもたちが自ら考え、それをどう解決するか考える。ただ単に「ふるさと大好き！」という郷土愛ではなくて、自分たちの村のことについて学び、そこにある資源をどう活かして解決するかということまで考える。（白川郷学園ウェブサイト参照）

今回、9年生のみなさんが活動内容を発表してくれました。関高校が取り組んでいる探究活動と同じ方向性の活動でありことがわかり、うれしく、頼もしく、交流することができました。今年はコロナ禍もあって、白川郷学園訪問を見送りせざるを得ませんでした。次年度は対面での交流ができることを願っています。

◇ 参加した生徒の感想

■私は白川郷学園の9年生と交流をして興味を惹いたことが多くありました。私は白川郷に今まで行った事がなく、白川郷のことは合掌造りだけしか知りませんでした。交流会で白川郷の魅力についてプレゼンテーションを見た時、その土地柄がとても良いことが分かりました。自然に囲まれた中で、世界遺産の合掌造りと共に暮らしている姿は素晴らしいと思いました。私がひとりの生徒さんに質問をした時、その生徒さんは合掌造りに住んでいると言っていました。ここでは冬に民泊ができるという事も教えてくれました。私は是非いつか行ってみたいと思いました。

その後、私は白川郷学園の生徒さんに向けて研究発表を行いました。「SDGs12について知っていますか。」と尋ねた時、画面の向こうから首を縦に振る様子が見えました。なんと白川郷学園でもSDGsに絡めた学習をしており、1年生の頃から地域の自然を守る方法などについて、研究していたのでした。というわけで、私の発表の終わりには生徒さんがとても鋭い質問をしてくれました。私はその答えを上手く伝えられなかった事が心残りです。





私は早いうちからICT活用が進んでいる白川郷学園はとても良いなと思いました。ひとりの生徒さんが「iPadを誰よりも使いこなしている。」と言っていました。タブレットは関高生も貸し出されていますが、ほとんどが探究活動でしか使われていないと思います。白川郷学園のICTの授業について調べてみると、タブレット端末で漢字や計算、理科や社会に至るまで、ドリル学習をしているそうです。そうした学習の結果が一台のタブレットに蓄積されています。関高校でも一人一台のタブレットが貸し出されているので、授業での効果的な活用方法を探るべきだと思いました。



■今回もまた素敵な体験をさせていただきました。

私は、今回の交流会に参加させていただくまで、白川郷学園についての知識がありませんでした。ですが、今回の交流会を通して、岐阜県の大切な世界文化遺産や自然をどう守っていくのか、それを、村民学を通して小さい頃から学んでいる姿がすごいなと純粋に思いました。また、9年生の子たちの白川村への愛を感じました。私が関市の事を聞かれて、あんな自信を持って愛を持って答えられるかと聞かれたら答えることはできないと思います。9年生の子達の積極的な姿も見習いたいと思います。また、このような機会がありましたら是非参加したいです。ありがとうございました！



■白川郷学園の方と交流会が出来たことがとても良い経験になりました。中学生に当たる9年生なのにも関わらず、高校生と同じ視点で発表していたり、質問をしていてとても驚きました。わたしは白川村の好きなどを質問したんですが、村のことをとても誇りに思っていて凄いなと感じました。普段なら関わらない方との交流によってお互いに学ぶところが沢山あって勉強になりました。学んだことを部活や探究活動で活かしていきたいなと思います。

■白川学園のみなさんが、少人数だからこそ、村の人々との暖かい関わりを持ち、自分たちの村は自分たちで守っていこうと課題研究をしていることに感心しました。僕が中学生の頃は地域や地球の課題について考えて意見を述べるなんて全くしていなかったから、すごいなと思いました。関高等学校の発表は、白川学園のみなさんには難しいだろうと思っていたけど、反論や気になったことを述べてきてとても驚きました。地域や世界の課題について考えて取り組んでいる若者が僕たち以外にもちゃんといることが分かり、心強く思います。僕も課題研究に精一杯取り組もうと思いました。2歳しか変わらないのにとても若く感じて、元気をもらえました！参加してよかったです。

■白川郷学園との交流会を終えてまず一番に思ったことは、画面越しでも心温まるような居心地良い空間だったということです。白川郷学園の生徒さんは、明るくて笑顔が絶えず、人を助け合う”結”の心を一人一人が持っているからこそ、このような温かみが生まれるのだな

と実感しました。白川村民の結の精神を、その地に住んでいない私たちにも広めていくべきだなと感じました。また、積極的に発言する人が多く、さらに自分の意見をはっきり持っていることにとっても刺激を受けました。昔からの伝統を守り受け継ぐということは決して簡単なことではなく、努力や助け合いが必要だと思うので、この学園の生徒さんに将来の期待を抱きつつも、同じ県に住む私たちにも出来ることがないかを考え、手を差し伸べられたらと思います。

■先日の交流会では様々なことを学ぶことができたと思います。インターネットや本などで学ぶより深く白川郷での生活や学校生活、伝統文化について工夫されている点や特徴を知ることができたと思います。

中でも驚いたのは、中学生に見えないくらい質問の内容が大人だったことと、村民学を小学1年生から学んでいることです。小さい頃から村の文化にふれ、自分達の村をより良くするための活動を考えていたり、自然の保護や観光資源として自然を扱うための方法など様々な観点で村づくりを支えようとしているのが伝わってきました。また伝統の受け継ぎとして地区ごとに分けられた伝統文化をそれぞれが受け継ぎ、一体となって行事が行われているときいて協力と意欲の大切さを感じました。

伝統文化の伝承は小さい頃から伝統にふれ、その経験を積み重ねたものだなと実感したので、私がこれから研究する鶺鴒でも、このような伝承方法なのかということや鶺匠さんが鶺匠になるまえのことなどを追究し共通点やそれぞれの特徴を見比べてみたいと感じました。日常では経験できないとてもいい機会だったと思います。